

# 第11講 戦国大名の登場とヨーロッパ人の来航

## 基礎学習

● [ ] の中に適切な語句や数字を入れて、要点を整理しよう。(解答は解答解説 P.25)

この講の流れ図

時代	戦国時代								
年次	一四七七	一四八五	一四八八	一五一〇	一五二三	一五三六	一五四三	一五四九	一五五一
おもな事項	応仁・文明の乱終了 <small>おうにん・ぶんめいの らんしゆう</small>	山城の国一揆(一四九三) <small>やましろのくにいつき (いちぢゆうさん)</small>	加賀の一向一揆 <small>かがの いっぢゆういつき</small>	(守護富樫政親を倒す) 三浦の乱 <small>(しゆごとがしまさちか たお) さんぼの らん</small>	寧波の乱 <small>ねいぱの らん</small>	(大内・細川両氏の使者、抗争) 天文法華の乱 <small>(おうち・ほしかわ りうしんの しやせ、こうそう) てんぶんぽうけの らん</small>	(延暦寺僧兵らが法華宗徒と戦う) 種子島に鉄砲が伝来 <small>(えんりやくじそうへい) たねがしまに てつぱうが でんらい</small>	フランシスコ・ザビエル鹿児島に上陸	勘合貿易断絶 大内義隆、陶晴賢に襲撃され自刃 <small>かんごうぼうえき たういぎりゆう、たうせいけん に しゆうげきされ じじけん</small>
天皇	後土御門 <small>ごつちみかど ごとみかど</small>			後柏原 <small>ごかしわばら ごとかしわばら</small>		後奈良 <small>ごなら ごとなら</small>		正親町 <small>おおぎまち ぎしんち</small>	
中国	明								
朝鮮	朝鮮								

### (1) 戦国大名

#### ①特徴

- 室町幕府の権限分与により領国支配を行った守護大名とは異なり、自らの力でつくりあげた [ ① ] を支配する地方権力。郷村制を基礎とし、直接的に農民を支配した。

#### ②出自

- 守護から戦国大名に：今川氏・武田氏・島津氏・大友氏  
いまがわ たけだ しまづ おおとも
- 守護代から戦国大名に：織田氏・朝倉氏・長尾氏・尼子氏  
おだ あさくら ながお あまご
- 国人から戦国大名に：毛利氏・松平氏・長宗我部氏  
もうり まつだいら ちゆうそかべ
- その他：後北条氏(将軍の家臣)・斎藤氏(守護の家臣の家臣)など。  
ごほうじゆう (しゆうぐんのかしじん) さいとう (しゆごのかしじんのかしじん)

#### ③戦国大名の家臣統制

- 軍事力の強化：国人や地侍を被官(家臣)化することで強化を図った。[ ② ] (地侍などの下級武士=寄子を、有力家臣=寄親に預ける形)で組織した。

#### ④戦国大名の土地支配

- 戦国大名は、新たに奪った土地などで、しばしば検地をおこなった。
- [ ③ ] : 家臣などに支配地の面積・収入額などを記した台帳の提出を命令。これにより領国の支配権を確立させた。

○ [4] ]:家臣の知行地からの収入を銭に換算した貫高で掌握し、それに見合った軍役を賦課した。

⑤戦国大名の殖産興業

○ [5] ] の建設

・家臣団・商工業者を集住。家臣団集住は、家臣を支配地から切り離す統制の意味あり。

○商工業：軍事力に必要な物資生産や市場開発を行う。

○鉱山の開発：金山(越後・佐渡・甲斐など)、銀山(石見・但馬など)の開発。

○流通の整備：宿駅・伝馬制度整備、関所の廃止、楽市令など。

○治水：信玄堤(釜無川と御勅使川の合流点)

⑥戦国大名の統治

○ [6] ] (家法)の制定：領国支配の基本法。

・ [7] ]:家臣の私闘は理由を問わず両者を処罰(私闘の禁止)。➤大名の裁判権の確立。

○縁坐・連坐：犯罪人の親族・縁者や共犯者を連帯責任で処罰。➤犯罪の抑止。

○私婚の禁止：他大名との婚姻禁止。

○嫡子単独相続：嫡子が家督・財産を一括して相続。➤嫡子以外の子(庶子)は家臣化。

○城下町集住：機動的な軍隊を常備するため。

(おもな分国法)

分国法名	領国	成立年代	制定者
相楽氏法度	肥後	1493年～1555年頃	相楽為続・晴広
大内氏掟書(大内家壁書)	周防	1495年頃	大内持世・政弘
[8] ]	駿河	1526年	今川氏親
[8] 追加	駿河	1553年	今川義元
塵芥集	陸奥	1536年	伊達植宗
[9] ] (信玄家法)	甲斐	1547年～1554年	武田信玄
結城氏新法度	下総	1556年	結城政勝
六角氏式目(義治式目)	近江	1567年	六角義治
新加制式	阿波	1562年～1573年	三好長治
長宗我部氏掟書(長宗我部元親百箇条)	土佐	1596年	長宗我部元親
早雲寺殿廿一箇条	相模	不明	伊勢宗瑞(北条早雲)

◎史料 朝倉氏の分国法 出典：『朝倉孝景条々』

一 朝倉か館之外、国内□城郭を為構ましく候。惣別分限あらん者、一乗谷へ引越、郷村には代官計可被置事。

◎史料 武田氏の分国法 出典：『甲州法度之次第』

一 内儀を得ずして、他国へ音物書札これを遣はす事、一向にこれを停止畢んぬ。……

一 私領・名田の外、恩地領、左右無く沽却せしむる事、これを停止し訖んぬ。……

一 喧嘩の事、是非に覃ばず成敗を加ふべし。但し取り懸ると雖も堪忍せしむるの輩に於いては、罪科に処すべからず。(中略)然而、鼠負偏頗を以て合力せしむる族は、理非を論ぜず同科たるべし。……

◎史料 今川氏の分国法

出典：『今川假名目録』

- 一 駿府の中，不入地の事，これを破り畢んぬ。各異儀に及ぶべからず。
- 一 駿・遠両国の輩，或わたくしとして他国よりよめを取，或ハむこに取，むすめをつかハす事，自今以後これを停止し畢んぬ。
- 一 不入の地の事，代々の判形を載し，各露頭<sup>ろけん</sup>の在所の事ハ沙汰に及ばず。新儀の不入，自今以後これを停止す。……只今ハをしなべて，自分の力量を以て，国の法度を申付け，静謐<sup>せいひつ</sup>する事なれば，しゅごの手入間敷事，かつてあるべからず。兎角の儀あるに在いてハ，かたく申付くべきなり。

◎史料 伊達氏の分国法

出典：『塵芥集』

- 一 盗賊<sup>とうぞく</sup>に付て，親子の咎<sup>とが</sup>の事，親の咎は子にかけべし。たゞし，子たりとも，遠き境談合なすべきやうなくば，これをかけべからず。同子の咎，親にかけべからず。たゞし一家に候はゞ同罪<sup>ひとゐ</sup>たるべし。又時宜<sup>またじき</sup>によるべきなり。
- 一 百姓，地頭の年貢所当年貢相つとめず，他領へ罷り去る事，盗人の罪科たるべし。仍かの百姓許容<sup>よつて</sup>のかたへ，申届くるのうへ，承引いたさず候はゞ，格護候族同罪たるべきなり。

(2) 応仁・文明の乱後の室町幕府

- 1489年，足利義尚死去（9代將軍）後，翌年足利義植將軍就任（10代將軍 在職1490年～1493年，1508年～1521年）。
- 1493年，〔10〕（細川政元が足利義植を廢して足利義澄擁立）。
- 1494年，足利義澄將軍就任（11代將軍 在職1494年～1508年）。
- 1546年，足利義輝將軍就任（13代將軍 在職1546年～1565年）。
- 1565年，三好家の家臣らに襲われ，足利義輝が自殺。
- 畿内の実権の推移：足利將軍家>管領細川氏>細川家家臣三好長慶>三好家家臣松永久秀

(3) おもな戦国大名

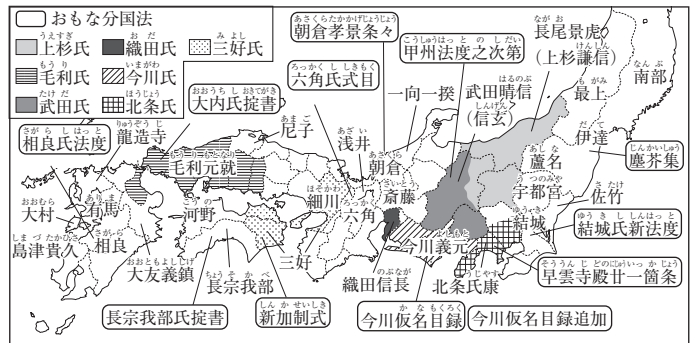
- 東北地方
  - ・最上氏（出羽），伊達植宗（陸奥）
- 関東地方
  - ・1454年，鎌倉公方の分裂。〔11〕（1454～1477）
  - ・足利成氏が関東管領上杉憲忠を殺害したことがきっかけ。
  - ・成氏は幕府からの追討を避けるため，下総の古河に移る。將軍義政は成氏追討のため，異母兄の足利政知を派遣したが鎌倉に入ることができず，伊豆の堀越に留まった。以後，鎌倉公方は〔12〕と〔13〕に分裂。

○後北条氏の台頭

- ・北条氏：〔14〕（伊勢宗瑞）が堀越公方を滅ぼして戦国大名化。本拠地 = 〔15〕
- ・3代北条氏康（〔16〕）・今川義元と同盟を結ぶ）の代に関東の大半を支配。

○中部地方

- ・長尾氏：越後国守護代から戦国大名化。長尾景虎が山内上杉の上杉憲政から関東管領の職を譲り受け，上杉政虎，出家後は〔17〕と改名。
- ・武田氏：甲斐国守護から戦国大名化。武田信玄（晴信）が，信濃国川中島で上杉謙信と戦う。



▲おもな戦国大名(1560年ごろ)と分国法

- ・朝倉氏：越前守護代から戦国大名化。朝倉義景が織田信長に滅ぼされた。本拠地＝〔18〕
- ・斎藤氏：美濃の戦国大名。斎藤道三が守護土岐氏を追い、戦国大名化。斎藤竜興が織田信長に滅ぼされた。
- ・今川氏：駿河・遠江の守護大名から戦国大名化。1560年、今川義元が桶狭間の戦いで織田信長に討たれ以後衰退。
- 中国地方
  - ・大内氏：周防・長門(現在の山口県)などの守護大名から戦国大名化。大内義隆が重臣の陶晴賢に討たれ滅亡。
  - ・毛利氏：安芸の国人〔19〕]が、陶晴賢や山陰の尼子氏などを倒し、中国地方に勢力を広げる。
- 四国地方
  - ・長宗我部氏：土佐の国人であった長宗我部元親が四国統一。しかし豊臣秀吉に屈服した。
- 九州地方
  - ・大友氏：豊後の守護大名から戦国大名化。大友義興(宗麟)はキリシタン大名。
  - ・島津氏：薩摩の守護大名から戦国大名化。島津義久が九州の大半を支配するが、豊臣秀吉に屈服。

#### (4) 都市の発展と町衆

##### ①都市の発展

- 農村手工業や商品経済の発達によって町が飛躍的に増加。
- 城下町：商人や職人も集住し、戦国大名の領地経済の中心となる。家臣団・商工業者が集められ、領国の政治・経済・文化の中心として形成されていった。  
代表的な城下町：朝倉氏(越前一乗谷)、北条氏(小田原)、今川氏(駿河府中)、大内氏(山口)
- 〔20〕：大寺社だけでなく、地方の中小寺院にも形成。参拝者を対象とした宿屋・商店が発達した。  
代表的な〔20〕：宇治山田(伊勢神宮の内宮・外宮)、長野(信濃の善光寺)、近江坂本(延暦寺)など。
- 〔21〕：浄土真宗本願寺派の寺院や道場(浄土真宗で寺院と称するに至らない念仏の集まりを行う場所)を中心に建設された町。門徒の商工業者が集住するとともに他宗派からの攻撃に備え、多くは濠・土塁などで囲まれていた。  
代表的な〔21〕：石山(摂津の石山本願寺)、吉崎(越前)、金沢(加賀)、今井(大和)、富田林(河内)
- 港町：富裕な商工業者たちが自治組織を作って市政を運営していた。  
代表的な港町：〔22〕：(和泉・自由都市)・博多(筑前・自由都市)・小浜(若狭)・敦賀(越前)・大津(近江)・平野(摂津)・兵庫(摂津)・十三湊(陸奥)・蝦夷地と京都を結ぶ・坊津(薩摩)・三津の1つ)・草戸千軒町(備後)・17世紀に芦田川の洪水で水没。20世紀に入り発見された。

##### ②町衆の登場

- 堺(和泉)：日明貿易、南蛮貿易で繁栄。36人の〔23〕]が町政を運営。
- 博多(筑前)：日明貿易、南蛮貿易で繁栄。12人の〔24〕]が町政を運営。

##### ○史料 堺の発展

出典：『耶蘇会士日本通信』

堺の町は甚だ広大にして大なる商人多数あり。此町はベニス市の如く執政官に依りて治めらる。

一五六一(永禄四)年八月十七日、ガスバル＝ヴィレラ書簡

- 京都：町(都市民の自治的団体)が生まれ、町衆(「町」の中心的構成員である富裕な商工業者)の中から選ばれた〔25〕]が運営。1500年、祇園祭も再興。
- 平野：摂津国。年寄衆が町政運営。
- 大湊：伊勢国。老分衆による自治が行われた。

#### (5) ヨーロッパ人の東アジア進出

##### ①東アジアおよび日本の状況

- 日明貿易の断絶：1551年、大内氏が滅亡し、勘合貿易廃絶。
- 後倭寇の活発化：明の衰退>〔26〕]の弛緩>中国人密貿易商人の活発化。日本人海上民(商

人)と合流し、貿易・海賊行為。

## ②大航海時代(15世紀末～16世紀頃)

- 背景：ルネサンス・宗教改革などにより近代社会へ発展。イスラム世界に対抗➤キリスト教の布教。新航路開拓➤海外貿易拡大・植民地獲得。
- 1492年, [27] ] が西インド諸島到達(アメリカ大陸発見)。
- 1498年, [28] ] がインド航路発見(インド西海岸カリカットへ到達)。
- 16世紀初, [29] ] 一隊が世界周航。アメリカ大陸南端を回ってフィリピン諸島に到達。一隊は西進し、世界周航を成し遂げた。

## ③ヨーロッパ人のアジア進出

- ポルトガル：インドの西海岸を根拠地にして東へ進出。ゴア(インド)・マラッカ(マレー半島)・マカオ(中国)を拠点に活動。1543年, ポルトガル人が日本に初来航。
- スペイン(イスパニア)：太平洋を横断して東アジアへ進出。[30] ] (フィリピン)を拠点に活動。1584年, 平戸にルソンからの貿易船が初来航。貿易開始。

## (6) ポルトガル人の初来航と鉄砲伝来

### ①ポルトガル人の初来航

- 1543年, 中国船(王直の倭寇船), [31] ] (大隅)に漂着。ポルトガル人(『鉄砲記』には2名)が乗船。

### ②鉄砲伝来

- 1543年, ポルトガル人初来航時, 島主種子島時堯, 鉄砲二丁を入手。家臣に使用法と製造法を学ばせた。1丁が島津貴久➤足利義晴➤近江国友村へと伝承。
- 産地の形成：紀伊根来・紀伊雑賀・和泉堺・近江国友。
- 鉄砲伝来の影響, 戦闘方法の変化：騎馬隊中心➤足軽鉄砲隊中心の編成。
- 築城法の変化：山城➤平山城➤平城へ移行。

## (7) キリスト教の伝来

### ①キリスト教の伝来

- 背景：宗教改革によりヨーロッパでプロテスタントが台頭。危機感を持ったカトリックが信者獲得のためにアジアでの布教活動を行った。1534年, イエズ会設立。
- 1549年, イエズ会(耶蘇会)宣教師 [32] ] (スペイン人), 鹿児島来航。鹿児島(島津貴久, 布教許可)➤平戸➤博多➤山口➤京➤山口(大内義隆, 布教許可)➤豊後府内(大友義鎮(宗麟), 入信)➤1551年, 離日。
- その後, 宣教師が相次いで来日するようになる。

### ②宣教師の活躍

宣教師	国名	活躍
ガスバル＝ヴィレラ [1556年来日]	ポルトガル	室町幕府の許可を得て畿内で布教。 『耶蘇会士日本通信』に堺に関する書簡。
ルイス＝フロイス [1563年来日]	ポルトガル	織田信長に京都で謁見し, 布教を許可。僧である日乗朝山との宗論に勝利。 『日本史』を執筆。
オルガンティノ [1570年来日]	イタリア	京都に南蛮寺建立。 安土にセミナリオ建設。
ヴァリニャーニ [1579年来日]	イタリア	イエズス会巡察師。日本国内の布教区を3つに整理。 コレジオ(豊後府内)・セミナリオ(安土・有馬)を創設。 キリシタン大名らに [33] ] の派遣を提案。 1590年：活字印刷術を伝える。



③布教施設

- コレジオ：宣教師養成学校。「キリシタンの大学」。1580年，豊後府内あまくさ▶天草▶長崎。
- セミナリオ：神学校。信者以外も入れる。1580年に有馬，安土に設置。
- 南蛮寺：キリスト教の教会堂。1552年，山口の大道寺だいどうじにはじまり，以後各地に設立。
- ノビシャド：イエズス会入信者の修練所。

④キリシタン大名

[64]	肥前大村領主。最初のキリシタン大名。 長崎をイエズス会へ寄進。
大友義鎮(宗麟)	豊後府内領主。洗礼名フランシスコ。
有馬晴信	肥前有馬領主。洗礼名ジョアン。
黒田孝高(如水)	豊前。洗礼名シメオン。織田信長・豊臣秀吉に仕え，関ヶ原の戦いでは東軍。
高山右近	高槻城主のち明石城主。洗礼名ジュスト。1614年，禁教令によりマニラへ追放。
小西行長	肥後宇土領主。洗礼名アゴスチノ。
蒲生氏郷	会津若松領主。洗礼名レオン。

- 天正遣欧使節(1582～1590)：ヴァリニャーニの勧めで，大友義鎮(宗麟)・大村純忠・有馬晴信の3大名が少年4人を派遣。伊東マンショ・千々石ミゲル・中浦ジュリアン・原マルチノの4人。スペイン国王フェリペ2世に歓待された。その後，教皇グレゴリウス13世に謁見した。

(8) 南蛮貿易

①南蛮貿易の特徴

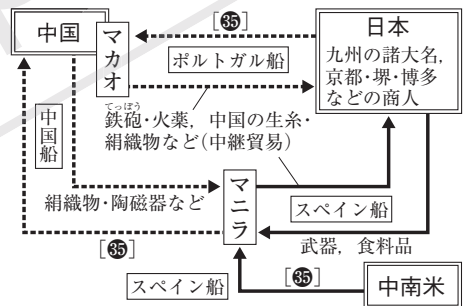
- マカオ・マニラを拠点とする中継貿易。キリスト教の布教と貿易が一体化していた。南蛮人：ポルトガル人・イスパニア人・イタリア人など南欧系の人々。

②貿易港

- 長崎(大村純忠がイエズス会に寄進)，豊後府内(大友義鎮)，平戸(松浦氏)など。京都・堺・博多などの商人が参集。

③貿易品

- 輸入品：白糸(高級生糸)・鉄砲・火薬・香料・絹布けんぷなど。
- 輸出品：[65] (輸入品の対価) 日本刀・硫黄・漆器など。[65]の生産が向上した背景は，神谷寿禎が朝鮮より導入した灰吹法による。



▲南蛮貿易

POINT

守護大名と戦国大名の違い

	守護大名	戦国大名
系譜	大犯三カ条以外に刈田狼藉の取り締まりや使節遵行などの権限を得て成長。	応仁・文明の乱後，下剋上の風潮の中で守護大名・守護代・国人などから成長。
幕府との関係	幕府の要職に任命され，京都に在住しなければならぬ。領国は守護代に任せた。	在国して自身の力で領国(分国)を統一。幕府権力より独立。
家臣団に対する統制	国人を家臣化(被官化)した。	寄親・寄子制の採用。 検地後，貫高制を採用。
領国の統治	領国内に荘園が存在し，半済令により，荘園・公領を侵略。守護請も盛んになる。	荘園制の解体。指出検地の実施。分国法の制定。城下町の建設。関所の撤廃。楽市令，鉱山開発，治水・灌漑事業を行った。

## >>> 確 認 問 題 <<<

- 次の問いに答えよ。または、( )にあてはまる語句を書け。
- ① 戦国大名は、自らの力でつくりあげた( )を支配する地方権力で、室町幕府の権限分与により領国支配を行った守護大名とは異なる。
- ② 戦国大名は、軍事力を強化するために国人や地侍を被官(家臣)化した。被官となった地侍らを有力家臣に預ける形で組織化する制度を何というか。
- ③ 家臣の知行地からの収入を錢に換算した貫高で掌握し、それに見合った軍役を賦課した。この制度を何というか。
- ④ 戦国大名は家臣団・商工業者を( )に集住させ、家臣を支配地から切り離して、政治的・経済的に統制した。
- ⑤ 戦国大名は( )を制定して、領国支配の基本方針とした。
- ⑥ 戦国大名が、家臣の私闘は理由を問わず両者を処罰するとした法制度を何というか。
- ⑦ 1493年、細川政元が10代將軍足利義植を廃して11代將軍に足利義澄を擁立した政変を何というか。
- ⑧ 1454年、足利成氏が関東管領上杉憲忠を殺害した( )をきっかけに鎌倉公方が分裂した。
- ⑨ ( ) (伊勢宗瑞)は堀越公方を滅ぼして伊豆の大名になり、1495年に、小田原を本拠とした。
- ⑩ 後北条氏は3代北条氏康のとき、( )・今川義元と同盟を結び、関東の大半を支配した。
- ⑪ 越後の長尾景虎は、山内上杉の上杉憲政から関東管領の職を譲り受け、出家後は( )と名乗った。
- ⑫ 安芸の国人( )は、陶晴賢や山陰の尼子氏などを倒し、中国地方に勢力を広げた。
- ⑬ 36人の( )が町政を運営する堺(和泉)は、日明貿易、南蛮貿易で繁栄した。
- ⑭ 12人の( )が町政を運営する博多(筑前)は、日明貿易、南蛮貿易で繁栄した。
- ⑮ 京都では、町(都市民の自治的団体)が生まれ、町衆の中から選ばれた( )によって運営された。
- ⑯ 明が衰退すると、( )が緩み、後期倭寇による密貿易が活発化した。
- ⑰ 1543年、中国船(王直の倭寇船)が( ) (大隅)に漂着して、ポルトガル人から鉄砲が伝わった。
- ⑱ 1549年、イエズス会(耶蘇会)宣教師( )が鹿児島に来航した。
- ⑲ イエズス会のヴァリニャーニの勧めで、大友義鎮(宗麟)・大村純忠・有馬晴信の3大名が少年4人派遣した使節を何というか。
- ⑳ 南蛮貿易において輸入品の対価は何によって支払われたか。

# 基本問題

1 次を示す史料は、戦国大名の家法・分国法である。これを読んで以下の問いに答えよ。

史料A「甲州法度之次第」

喧嘩の事、是非に畢ばず成敗を加ふべし。但し取り懸ると雖も堪忍せしむるの輩に於いては、罪科に処すべからず。……

史料B

駿・遠兩國の輩、或わたくしとして他国より嫁をとり、或ハむこに取り、むすめをつかはす事、自今以後これを停止し畢んぬ。

史料C「朝倉孝景条々」

当家壘館の外、必ず国中に城郭を構させらる間敷く候。すべて大身の輩をバ悉く一乗谷へ引越しめて、其郷其村にハ、只代官下司のみ居置かるべきの事。

- (1) 史料Aの法令には、どのような効果があるか。次の中で最も適当なものを選べ。
- ア 従来慣習的に認められていなかった私闘を引き続き禁止し、紛争を戦国大名の裁判に委ねさせて領国の平和を実現する。
  - イ 従来慣習的に認められていなかった私闘を引き続き禁止し、紛争を室町幕府の裁判に委ねさせて領国の平和を実現する。
  - ウ 従来慣習的に認められてきた私闘を新たに禁止し、紛争を戦国大名の裁判に委ねさせて領国の平和を実現する。
  - エ 従来慣習的に認められてきた私闘を新たに禁止し、紛争を室町幕府の裁判に委ねさせて領国の平和を実現する。
- (2) 史料Aを出した戦国大名として最も適当なものは、次のうちどれか。
- ア 伊達氏    イ 北条氏    ウ 上杉氏    エ 武田氏
- (3) 史料Bを出した戦国大名として最も適当なものは、次のうちどれか。
- ア 結城氏    イ 今川氏    ウ 上杉氏    エ 武田氏
- (4) 史料Cの下線部の内容として最も適当なものは、次のうちどれか。
- ア 家臣の城下町集住の実施    イ 楽市・楽座の実施  
ウ 指出検地の実施    エ 貫高制の実施

1

(1)

(2)

(3)

(4)

2 次の史料を読んで、後の設問に答えよ。

堺の町は甚だ広大にして大なる商人多数あり。此町はベニス市の如く執政官に依りて治めらる。

- (1) 下線部の「執政官」は、堺ではどのようによばれたか。
- ア 年行司    イ 月行事    ウ 年寄衆    エ 会合衆
- (2) この史料は『耶蘇会士日本通信』所収のガスバル・ヴィレラの書簡である。彼が来日した理由として最も適当なものはどれか。
- ア 九州においてカトリックの布教を行うため。  
イ 畿内においてカトリックの布教を行うため。  
ウ 九州においてプロテスタントの布教を行うため。  
エ 畿内においてプロテスタントの布教を行うため。

2

(1)

(2)



# 演習問題

## 1 戦国大名 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

応仁・文明の乱後、地方では、自らの力で領国をつくり上げ、<sup>a</sup>分国法を制定するなどして、独自の支配を行う<sup>b</sup>戦国大名が登場した。特に、<sup>c</sup>関東地方では、享徳の乱をきっかけに早くから混乱が生じていたことで知られる。戦国大名は、自国の殖産興業策の一環として<sup>d</sup>鉱山開発に力を入れたり、治水事業を行ったりした。

(1) 下線部 a に関連して、次の分国法を制定した東北の戦国大名の名を下のア～エの中から一つ選べ。

一、百姓、地頭の年貢所当相つとめず、他領へ罷り去る事、盗人の罪科たるべし。

ア 浅井氏    イ 大内氏    ウ 伊達氏    エ 六角氏

(2) 下線部 b に関連して、戦国大名が行った家臣統制や土地支配に関する語句として、適当でないものを次のア～エの中から一つ選べ。

ア 石高制    イ 指出検地    ウ 寄親寄子制    エ 貫高制

(3) 下線部 c に関連して、関東地方での対立について述べた次の文 X・Y の正誤の組合せとして正しいものをあとのア～エの中から一つ選べ。

X 鎌倉公方足利成氏の堀越公方と足利政知の古河公方とに分裂した。

Y 関東管領の上杉氏が山内・扇谷の両家にわかれて対立した。

ア X 正 Y 正    イ X 正 Y 誤

ウ X 誤 Y 正    エ X 誤 Y 誤

(4) 下線部 d に関連して、戦国時代に開発された金山の所在地として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選べ。

ア 足尾    イ 石見    ウ 但馬    エ 佐渡

1

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

## 2 都市の発展と町衆 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

戦国時代には、農村手工業や商品経済の発展によって、<sup>a</sup>城下町・門前町・寺内町・港町などの町が成立した。港町のなかには、日明貿易の根拠地として栄えた<sup>b</sup>堺や博多のように、豪商の合議によって自治が行われた町もあった。一方、<sup>c</sup>京都のような古い政治都市でも町衆を中心として、自治的組織を形成した町が創出された。

(1) 下線部 a に関連して、戦国時代に成立した町について述べた文として、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選べ。

ア 北条氏の小田原や朝倉氏の春日山などが、城下町として成立した。

イ 大寺社の参道周辺には、金沢や山口などの門前町が成立した。

ウ 越前の吉崎や撰津の石山などには、一向宗門徒の寺内町が成立した。

エ 水陸交通の発達により、河内の富田林や備後の草戸千軒町などに港町が成立した。

(2) 下線部 b について述べた次の文 X・Y の正誤の組合せとして正しいものをあとのア～エの中から一つ選べ。

X 堺では、36人の会合衆によって町政が運営された。

Y 博多では、12人の月行事によって町政が運営された。

ア X 正 Y 正    イ X 正 Y 誤

ウ X 誤 Y 正    エ X 誤 Y 誤

(3) 下線部 c に関連して、京都の町衆によって再興された祭りの名を漢字3字で答えよ。

2

(1)	
(2)	
(3)	

㉓ **ポルトガル人の初来航・キリスト教の伝来** 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。 ㉔

大航海時代と呼ばれる15世紀末から16世紀には、<sup>a</sup>キリスト教の布教や貿易の拡大を目指したヨーロッパ人が世界に進出した。なかでも、ポルトガルとスペインは、早くから海外への進出をはかり、ポルトガルは中国の( ① )を、スペインはフィリピンの( ② )を拠点に貿易を行った。当時の東アジア地域では、明が( ③ )政策をとって私貿易を禁止していたことから中継貿易が行われており、ヨーロッパ人もこれに参入した。1543年、ポルトガル人が( ④ )に来航し鉄砲を伝えた。鉄砲は、<sup>b</sup>刀鍛冶の技術が基礎となって国内生産されるようになり、戦国大名のあいだに急速に普及した。鉄砲の普及は、<sup>c</sup>戦における戦法や、防御施設としての城の構造に変化をもたらしした。1549年には、イエズス会宣教師の( ⑤ )が鹿児島に来航し、キリスト教を伝えた。( ⑤ )は、2年後にインドに帰ったが、<sup>d</sup>その後あいついで宣教師が来日した。

当時、日本ではポルトガル人やスペイン人が南蛮人と呼ばれ、彼らとの間で<sup>e</sup>南蛮貿易が行われた。南蛮貿易は、キリスト教の布教活動と一体化して行われ、宣教師たちは、宣教師の養成学校である( ⑥ )や神学校の( ⑦ )をつくって布教に努めた。戦国大名の中には、<sup>f</sup>洗礼を受けてキリシタン大名となる者もいた。

(1) 文章中の( )に最も適した語句を次のア～セから選べ。

- ア マカオ    イ ルイス＝フロイス    ウ 対馬    エ コレジオ    オ 鎖国  
 カ バードレ    キ マニラ    ク 海禁    ケ フランシスコ＝ザビエル  
 コ 屋久島    サ ゴア    シ セミナリオ    ス イグナティウス＝ロヨラ  
 セ 種子島

(2) 下線部 a に関連して、ヨーロッパ人の世界進出について述べた次の文 X・Y の正誤の組合せとして正しいものをあとのア～エの中から一つ選べ。

- X コロンブスは、大西洋を横断して西インド諸島に到達した。  
 Y ヴァスコ＝ダ＝ガマは、喜望峰をまわってインドのカリカットに到達した。

- ア X 正 Y 正    イ X 正 Y 誤  
 ウ X 誤 Y 正    エ X 誤 Y 誤

(3) 下線部 b に関連して、当時鉄砲が製造された紀伊に所在する地名として正しいものを次のア～エの中から一つ選べ。

- ア 石山    イ 国友    ウ 根来    エ 桑名

(4) 下線部 c に関連して、鉄砲の普及によって生じた戦法や築城法の変化について述べた次の文 A～D のうち、正しいものの組合せを下のア～エの中から一つ選べ。

- A 弓や槍を持つ騎馬隊による集団戦法から、一騎打ち戦法へと変化した。  
 B 足軽鉄砲隊が登場し、一騎打ち戦法から集団戦法へと変化した。  
 C 山地につくられる山城から、平山城や平城へと変化した。  
 D 防塞としての役割が増し、平地につくられる平城から山城へと変化した。

- ア A・C    イ B・D    ウ A・D    エ B・C

(5) 下線部 d に関連して、来日した宣教師のうち、活字印刷術を伝えた人物は誰か。カタカナで答えよ。

(6) 下線部 e に関連して、南蛮貿易のおもな輸出品として正しいものを、次のア～エの中から一つ選べ。

- ア 白糸    イ 漆器    ウ 金    エ 銀

(7) 下線部 f に関連して、洗礼を受けたキリシタン大名のうち、長崎を教会に寄進した人物は誰か。漢字4字で答えよ。

(1)	①
	②
	③
(1)	④
	⑤
	⑥
	⑦
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	
(6)	
(7)	